

院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU 部門

2007 年報(7 月～12 月)

【集中治療室部門におけるサーベイランスの概要と目的】

集中治療室 (ICU) 部門は、ICU における人工呼吸器関連肺炎、尿路感染、カテーテル関連血流感染の発生状況¹⁾を監視し、その原因菌に関するデータを参加医療機関から収集している。各感染症について全参加医療機関の感染症発生率を 1,000 患者・日当たりで算出²⁾し、感染症発生率の分布と合わせて一般公開している。また感染症別に原因菌の分離件数を算出している。

これらのデータによって、ICU におけるデバイス関連感染症防止対策を支援することを目的としている。

【解説】

1. 参加医療機関数、解析対象患者数

今回の年報 (2007 年 7 月～12 月) におけるデータ提出医療機関数は、84 医療機関であった。ICU 入室患者数は 21,885 人で、このうち熱傷患者および ICU 在室日数が 2 日以内の患者を除いた解析対象患者数は 7,829 人 (35.8%) であった。解析対象患者数の中央値は 76 人、平均値は 93 人であった。

2. 解析対象患者の患者・日

解析対象患者の患者・日は合計 71,920 患者・日で、中央値は 668 患者・日、平均値は 856 患者・日であった。

3. 感染症発生率

感染症の発生数は合計 330 件であった。人工呼吸器関連肺炎の発生率が 2.9 件/1,000 患者・日 (212 件) と最も多く、次いでカテーテル関連血流感染症が 1.2 件/1,000 患者・日 (84 件) で、尿路感染症が最も少なく、0.5 件 /1,000 患者・日 (34 件) であった。

4. 原因菌

培養検査が行われた件数は 468 件で、原因菌として最も多いのが、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) で 21.8%、次いで緑膿菌が 17.9%、表皮ブドウ球菌 が 6.2% であった。

人工呼吸器関連肺炎で培養検査が行われた件数は 329 件で、MRSA が最も多く、24.9% を占め、次いで緑膿菌が 19.8%、*Stenotrophomonas maltophilia* が 6.7% であった。カテーテル関連血流感染症で培養検査が行われた件数は 97 件で、MRSA と表皮ブドウ球菌が 19.6% で最も多く、次いでコアグラゼ陰性ブドウ球菌³⁾ が 9.3% であった。尿路感染症で培養検査が行われた件数は 42 件で、大腸菌と緑膿菌 26.2% で最も多く、次いで *Enterobacter cloacae* 7.1% であった。

1) 判断基準については http://www.nih-janis.jp/section/standard/standard_icu_ver1.2_20100112.pdf を参照。

2) 米国 CDC が行っている NHSN における単位は 1,000 デバイス・日を用いているため、JANIS のデータとの比較には注意が必要である。

3) コアグラゼ陰性ブドウ球菌のうち、表皮ブドウ球菌を除き集計した。

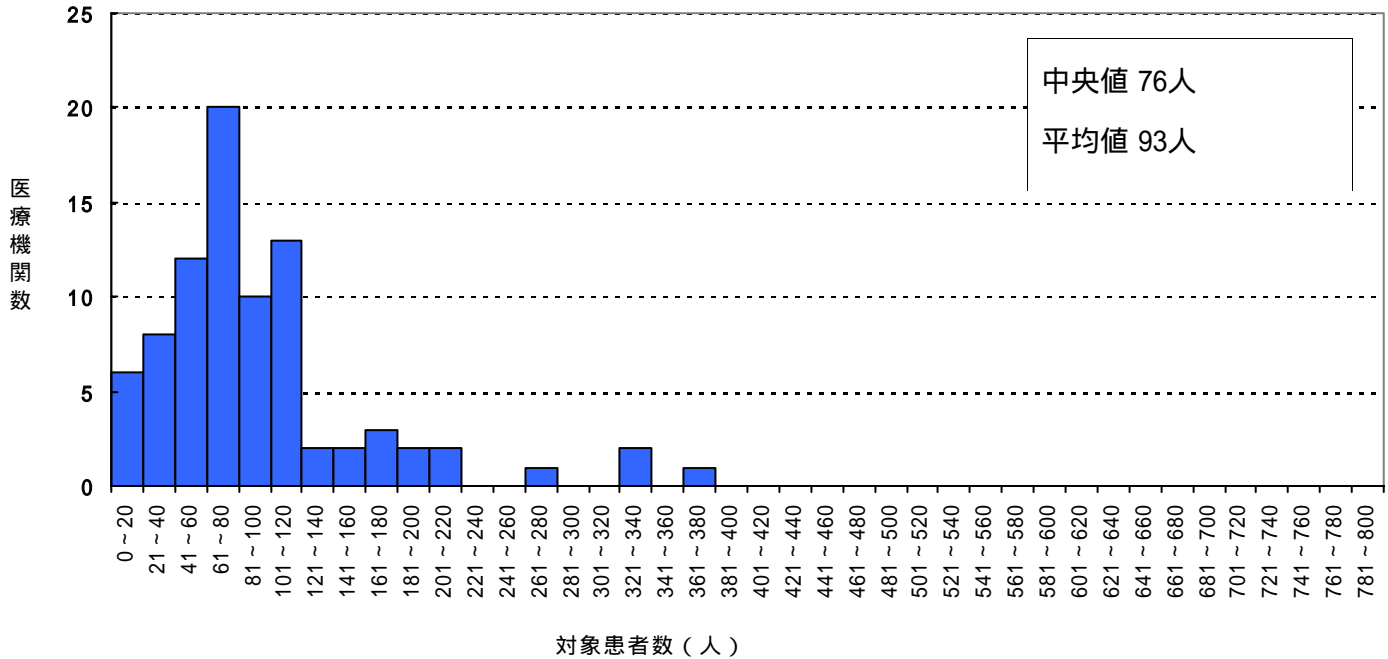
院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

2007年報(7月～12月)

1. 集中治療室入室患者数

ICU入室患者数*	解析対象患者数**	1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値)***	各医療機関の解析対象患者数の分布
21885	7829	93	

各医療機関の解析対象患者数の分布



*: 熱傷患者を除く

** : 熱傷患者、ICU在室日数が2日以内の患者を除く

***: 1医療機関あたりの解析対象患者数(平均値) = 解析対象患者数 ÷ 参加医療機関数

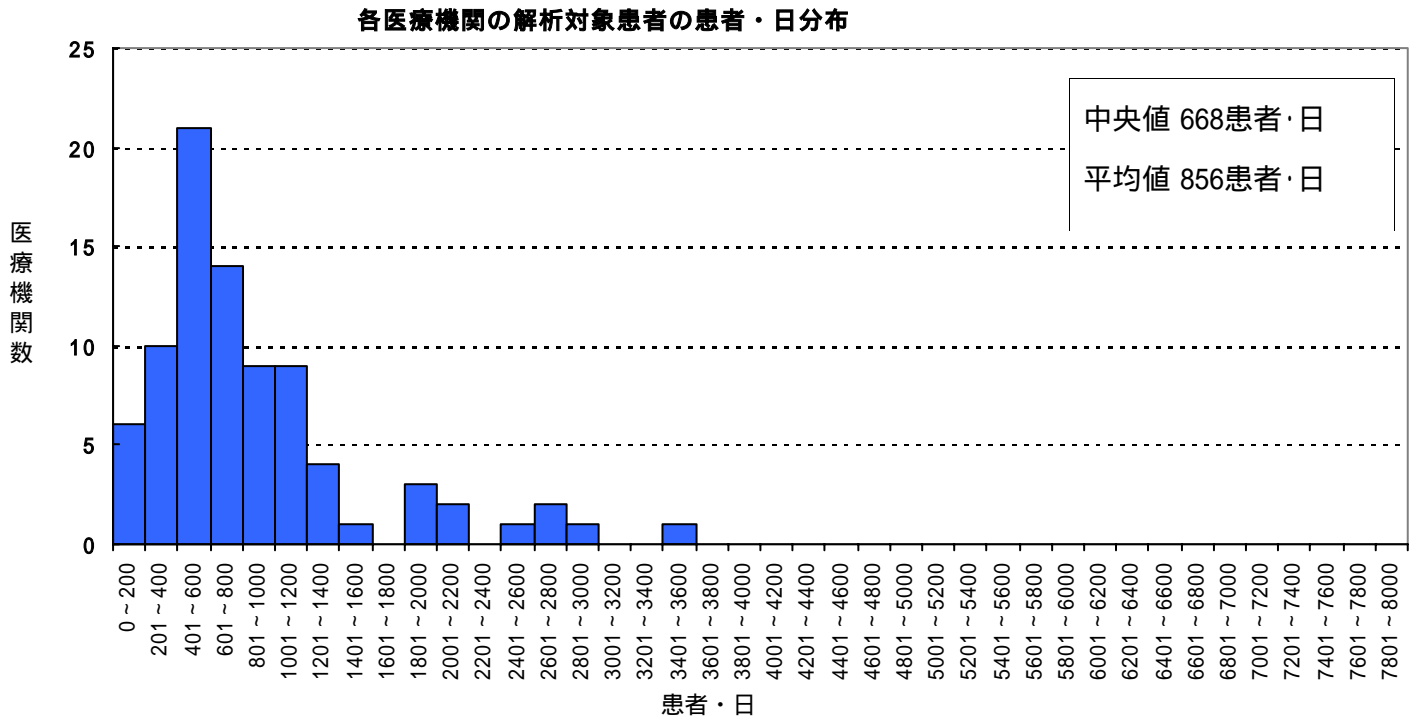
データ集計日: 2010年08月20日

公開情報掲載日: 2010年09月22日

院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門 2007年報(7月～12月)

2. 解析対象患者の患者・日

全参加医療機関患者・日合計	1医療機関あたりの患者・日(平均値)*	各医療機関の患者・日の分布
71920	856	



*: 1医療機関あたりの患者・日(平均値) = 全参加医療機関患者・日合計 ÷ 参加医療機関数

データ集計日: 2010年08月20日
公開情報掲載日: 2010年09月22日

院内感染対策サーベイランス公開情報 ICU部門

2007年報(7月～12月)

3. 感染症発生率

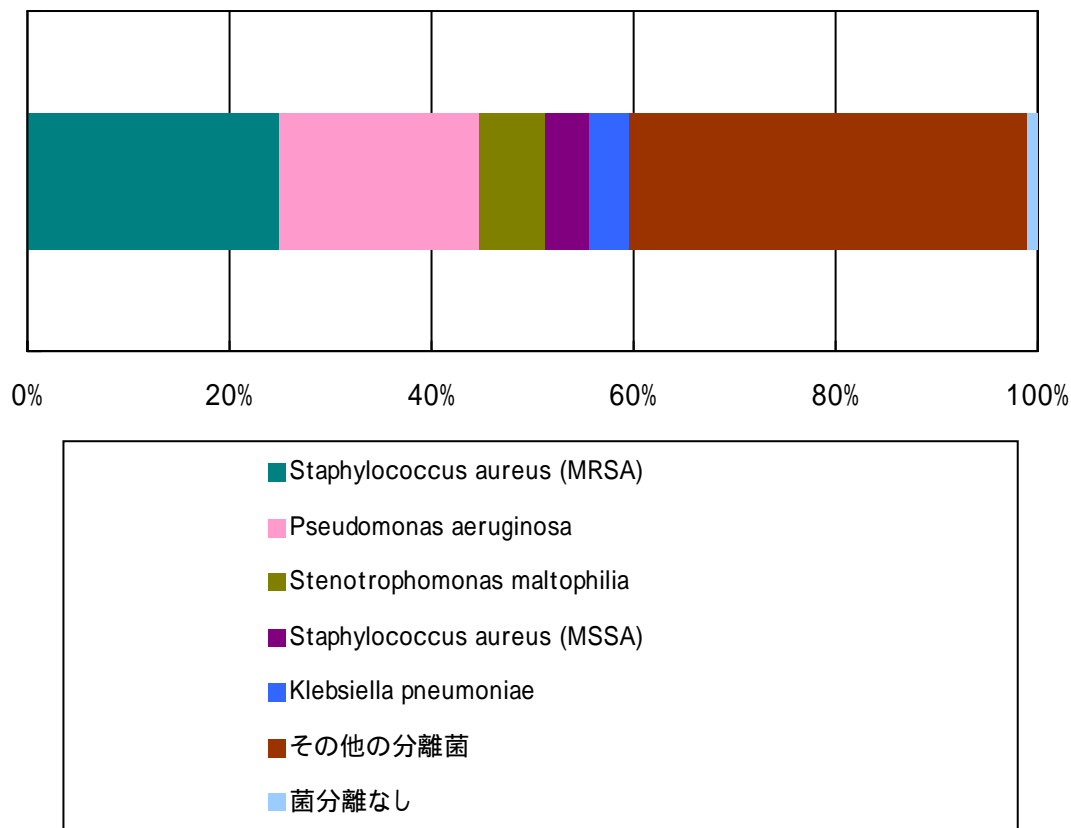
	全医療機関 合計発生数	感染症発生率 (件/1000患者・日) *	感染症発生率の参加医療機関分布
人工呼吸器関連肺炎	212	2.9	 22.9
尿路感染症	34	0.5	 13.0
カテーテル関連血流 感染症	84	1.2	 20.4

*: 感染症発生率(件/1000患者・日) = (全参加医療機関合計発生数 ÷ 全参加医療機関患者・日合計) × 1000

データ集計日: 2010年08月20日
公開情報掲載日: 2010年09月22日

4 . 感染症別原因菌（人工呼吸器関連肺炎）

人工呼吸器関連肺炎
(n = 329)



原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus aureus (MRSA)	82	(24.9%)
Pseudomonas aeruginosa	65	(19.8%)
Stenotrophomonas maltophilia	22	(6.7%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	14	(4.3%)
Klebsiella pneumoniae	13	(4.0%)
その他の分離菌	130	(39.5%)
菌分離なし	3	(0.9%)
合計	329	(100.0%)
培養検査なし	3	

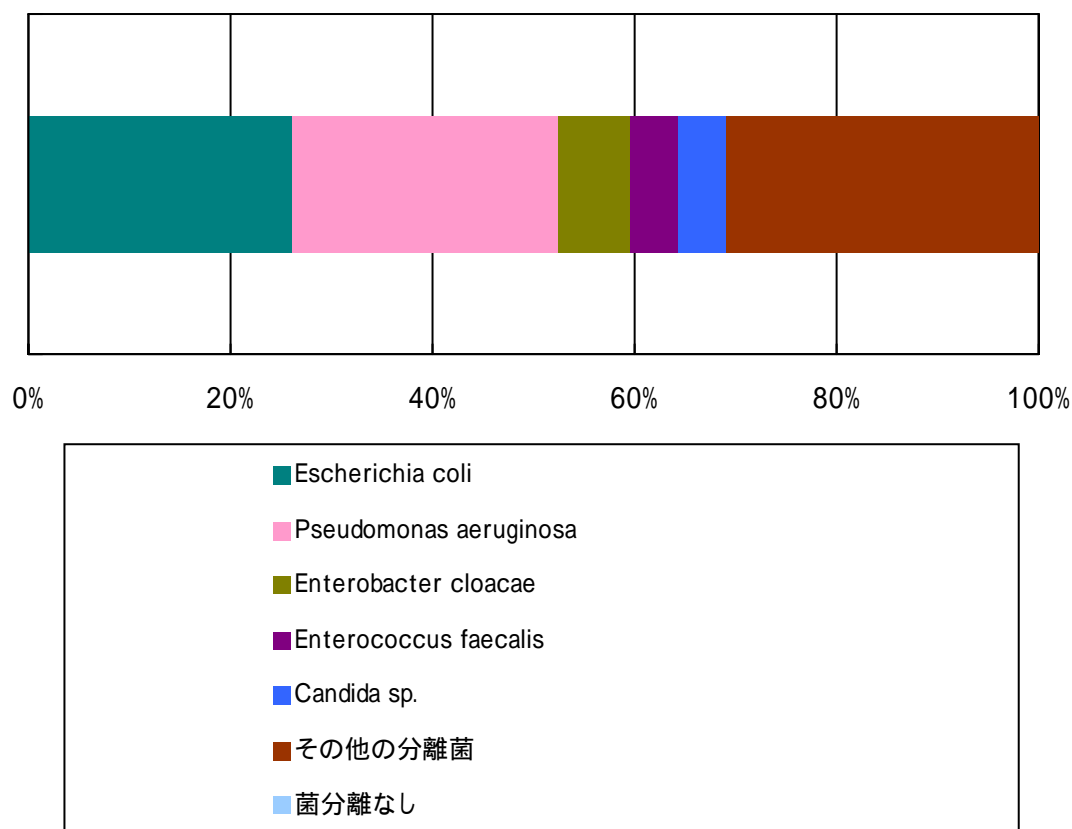
(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠

データ集計日: 2010年08月20日
公開情報掲載日: 2010年09月22日

4 . 感染症別原因菌 (尿路感染症)

尿路感染症
(n = 42)



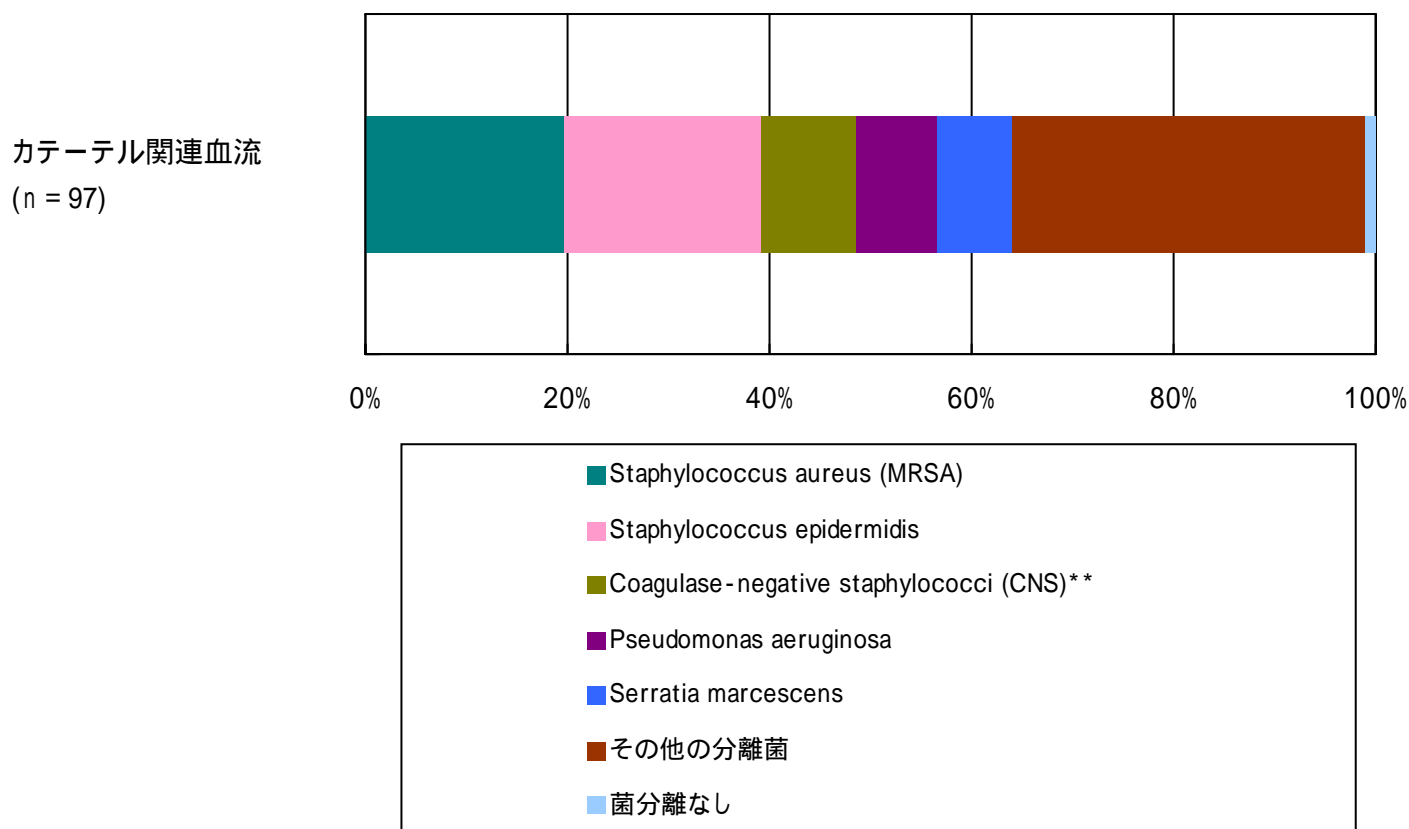
原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Escherichia coli	11	(26.2%)
Pseudomonas aeruginosa	11	(26.2%)
Enterobacter cloacae	3	(7.1%)
Enterococcus faecalis	2	(4.8%)
Candida sp.	2	(4.8%)
その他の分離菌	13	(31.0%)
菌分離なし	0	(0.0%)
合計	42	(100.0%)
培養検査なし	1	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠

データ集計日: 2010年08月20日
公開情報掲載日: 2010年09月22日

4. 感染症別原因菌（カテーテル関連血流感染症）



原因菌 *	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus aureus (MRSA)	19	(19.6%)
Staphylococcus epidermidis	19	(19.6%)
Coagulase-negative staphylococci (CNS)**	9	(9.3%)
Pseudomonas aeruginosa	8	(8.2%)
Serratia marcescens	7	(7.2%)
その他の分離菌	34	(35.1%)
菌分離なし	1	(1.0%)
合計	97	(100.0%)
培養検査なし	1	

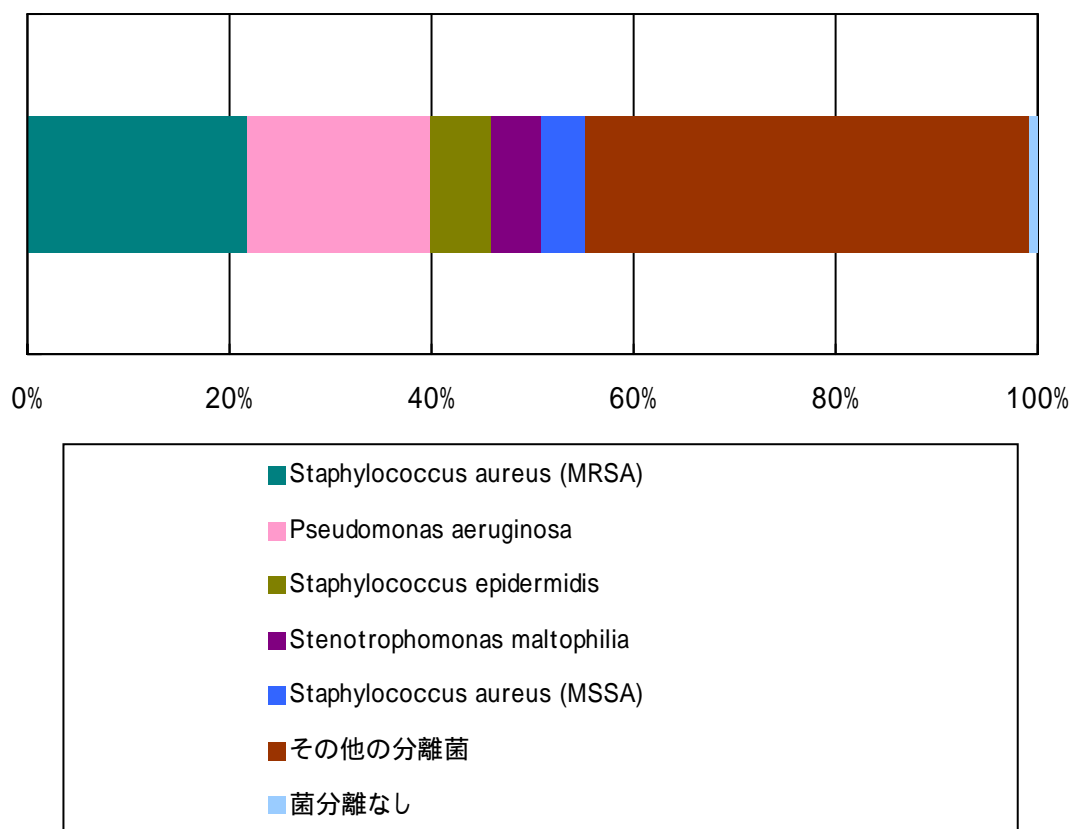
(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*菌名は菌名コード(http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls)に準拠

**S.epidermidis (菌名コード:1312)と報告された菌は除く

4. 感染症別原因菌（全感染症）*

全感染症
(n = 468)



原因菌 **	原因菌分離件数 (%)	
Staphylococcus aureus (MRSA)	102	(21.8%)
Pseudomonas aeruginosa	84	(17.9%)
Staphylococcus epidermidis	29	(6.2%)
Stenotrophomonas maltophilia	23	(4.9%)
Staphylococcus aureus (MSSA)	21	(4.5%)
その他の分離菌	205	(43.8%)
菌分離なし	4	(0.9%)
合計	468	(100.0%)
培養検査なし	5	

(原因菌は上位5菌種のみ表示しています。)

*人工呼吸器関連肺炎・尿路感染症・カテーテル関連血流感染症の合計

**菌名は菌名コード (http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver3.1_20070701.xls) に準拠

データ集計日: 2010年08月20日
公開情報掲載日: 2010年09月22日